

○4番（鈴木英明君） おはようございます。議席番号4番、鈴木英明です。議長から発言の許可をいただきましたので、通告どおり一般質問させていただきます。傍聴にお越しの皆様には、年末のお忙しい中、足を運んでいただきありがとうございます。

それでは、1項目めのAIオンデマンド交通について質問させていただきます。国土交通省の資料によると、AIオンデマンド交通とは、路線バスのような路線定期型交通とは異なり、運行方式や運行ダイヤ、発進地の自由な組合せにより、地域の特性に応じて柔軟な運行の方法を行うものとして多くの都市で展開されています。運用の中で、予約などに応じた配車や運行経路の設定など、AI技術を用いて効率的な運営、運行を実現しようとするものだそうです。当町においても10月11日からAIオンデマンドバスの実証実験が開始されました。

そこで、1点目の質問ですが、現在の利用者登録状況についてお伺いします。

2点目の質問ですが、現在、オンデマンドバスの利用可能な地区が旧境地区以外となっております。旧境地区においては、自動運転バスの路線の拡大が予定されているとお聞きします。AIオンデマンドバスについても、旧境地区の自動運転バスのバス停が近くにない方や、運転免許証を返納された方、高齢者のみの世帯にも広げてはどうかと考えます。当町の考えをお伺いします。

次に、2項目めの防災アプリについて質問させていただきます。震度7を観測した能登半島地震災害から始まった2024年、気象庁によると、2024年の地震発生数は、8月1日時点で2,800回を超えており、過去5年間における1年の地震発生数を既に大きく上回る数となっているそうです。

水害を見ても、7月25日から大雨により、秋田県、山形県、栃木県、新潟県で甚大な被害を受け、9月20日には1月1日に発生した能登半島地震で被害を受けた石川県も被害を受けました。これは激甚災害に指定されています。

いつ起こるか分からない自然災害に対して、私たちも日頃からの備えや防災意識の向上に努めなくてはいけないのではないかと考えます。当町でもスマートフォンなどのモバイル端末で利用できる災害時に必要な情報を提供するアプリの「サカインフォ」があります。その「サカインフォ」が6月にリニューアルされました。そこで、「ニューサカインフォ」の登録状況についてお伺いします。

私からの質問は、2項目3点です。執行部の答弁をお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 最初に、AIオンデマンド交通についての質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長 佐野直也君登壇〕

○企画部長（佐野直也君） 改めまして、おはようございます。それでは、鈴木議員の1項目め、AIオンデマンドバス交通についての1点目、10月11日にAIオンデマンドの実証実験が開始されましたが、利用者の登録状況についてとのご質問にお答えをさせていただきます。

まず、AIオンデマンドバスの運行についてでございますけれども、町では交通空白地域における移動の課題、具体的には、高齢者については買物や通院、子育て世帯につきましては、主に子供たち

の部活動や塾への送迎など、そういった問題を解決するため、令和5年3月に連携協定を締結した東京大学のモビリティ・イノベーション連携研究機構の須田義大教授からご紹介いただきました埼玉県北本市の事例を参考に、ワゴン車を3台活用したAIオンデマンドバスの運行を実施することといたしました。

その後、公共交通事業者など関係機関との調整を経まして、今年9月9日には議会、町内各種団体、国及び県の関係機関、地元公共交通事業者を委員とする境町公共交通活性化協議会を開催しまして、関係機関からの合意の下、10月10日に境地区以外の4地区に、事業の内容ですとか目的地一覧、登録申請書をセットしたチラシを全戸配布させていただき、10月21日から運行を開始したところでございます。

次に、登録状況についてご説明を申し上げます。利用者の登録状況に関しましては昨日12月3日現在で、登録者数が323名、利用者数が延べで232名となっております。境町役場、茨城西南医療センター病院、境町グラウンドゴルフ場などの目的地が多く利用されているということでございます。

利用された方々の意見としましては、「家族に送迎を頼むのにも気を遣ってきましたが、オンデマンドバスのおかげで気兼ねなく行動できるようになった」ですとか、「友達にも紹介して一緒にオンデマンドバスで移動できるようになって助かっています」など、好意的なご意見を多くいただいておりますので、併せてご報告を申し上げます。

次に、2点目、利用対象者を境地区の自動運転バスの停留所が近くにない方、運転免許を返納した方、高齢者のみの世帯にも広げてはどうかと考えます。当町の考えを伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

まず、利用対象の拡充についてでございますけれども、今回のAIオンデマンドバスの運行は路線バス、自動運転バスなどの公共交通が乏しい空白地域の町民の移動の自由を確保するということを目的としておりますことから、境地区以外の町民の方を対象として、まずは実証事業ということで開始をさせていただいたところであります。

また、地元公共交通事業者の要望等も勘案しまして、長田地区の長井戸、上小橋、静地区の塚崎地区の方であっても、路線バスのバス停がご自宅から半径300メートル圏内にある場合は、行き先を公的機関のみとさせていただくなど、利用を限定的とさせていただいているところであります。しかしながら、ご質問の境地区でも自動運転バス、路線バスの停留所が近くになく、移動に不便を来している方につきましても、移動の足を確保するということは大変重要なことだと考えております。

現在は、実証実験中でありますことから、今後の運行に際しましては、議会や町民の皆様、地元公共交通事業者等のご意見もお伺いしながら、境地区在住の方のご利用も含め、利用者の皆様が使いやすいような形を模索しながら、実施してまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） 答弁ありがとうございました。質問というのではないのですけれども、今回のこの質問は、3月の予算特別委員会でもちょっと質問させていただいて、そのときも町長から前向きなお話をいただいて、昨日もまたその町政報告でも町長からもいろんなお話聞けたので、質問という形ではなくて、これから少子高齢化進むので、公共交通の空白地帯の町民の方が安心して暮らせるような施策をどんどん進めていただきたいと思います。

これで1項目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） これでA I オンデマンド交通についての質問を終わります。

次に、防災アプリについての質問に対する答弁を求めます。

危機管理部長。

〔危機管理部長 野村静喜君登壇〕

○危機管理部長（野村静喜君） それでは、私から鈴木議員の2項目め、防災アプリについての6月に登録を開始した新たな防災アプリ（ニューサカインフォ）の登録状況について伺いたいとのご質問にお答えいたします。

まず、現在の状況につきましては、6月に実施を開始しました新たな防災アプリは、デジタル庁が推進しておりますデジタル田園都市国家構想交付金の採択を受け、マイナンバーカードによる人認証機能と連携したもので、これにより避難所受付でQRコードをスマホで読み取るだけで避難者名簿へ自動的に登録され、避難所ごとの避難者状況を自動集計し、より効率かつ正確、迅速に実態を把握することが可能です。また、写真、チラシ等の添付も可能であり、さらに理解しやすいものとなっております。なお、当町におきます現在の登録状況は、6月1日の登録開始から12月4日現在1,156人あります。

総務省の令和5年通信利用動向調査によりますと、スマートフォンを保有し、かつインターネットを利用している者は保有者の56.9%で、この値を12月1日現在の境町の18歳以上の人口2万1,236人に照らして計算すると1万2,075人となり、この値で登録者数を割った登録率は9.5%となります。

令和5年度に実施されたNTTモバイル社会研究所の調査によりますと、各自治体の防災アプリ登録率の全国平均は6.2%であり、当町の登録率はこれをやや上回っている状況となっております。

また、旧サカインフォでは導入から半年後の同時期では、登録者数は915人であり、導入段階では新防災アプリがやや多い状況です。旧サカインフォは5年後の令和5年6月の段階で登録者数は4,209人となりましたことから、継続した普及努力が重要と認識しております。

さらに、新防災アプリは、マイナンバーカードによる本人認証を行っておりますが、これは公的個人認証法に基づき、デジタル庁など国と地方公共団体が共同で管理する法人である地方公共団体情報システム機構が運営する最も高いレベルのセキュリティーや、信頼性を備えた個人認証サービスに対

応したものとなっております。

また、新防災アプリは、既にデータ連携基盤にひもづけられており、今後、マイコミュ、GOCHI、健幸マイレージ、マチコミ、子育てタウン、リーバーなど町で使用しているアプリが同様に連携基盤にひもづけられれば、マイナンバーカードによる本人認証が一度で済ませることができるなど、メリットが生じております。

このため、町では登録を促進すべく6月にチラシを全戸配布し、ホームページに掲載するほか、現在も防災安全課に登録窓口を設けるなど、各種防災訓練、防災講話の場や各課と連携して各種団体の会議や電子クーポンの巡回Ma a S等の機会を通じて普及に努めております。しかしながら、登録においては、旧スマホなどチップ読み取り機能がないマイナンバーカードの個人情報漏えいへの懸念、4桁の暗証番号を忘れ途中で放棄するなど、様々な要因により完全な登録に至らず、普及につながっていないのが現状であります。

今後の取組といたしまして、さらなる登録促進のため、従来の活動を継続するほか、障害者や外国人などの要配慮者に対し、支援団体と連携して支援ネットワーク、同言語ネットワークの構築により、漏れのない配信体制や訓練、各種イベントにおける登録促進活動から、年齢層や有効な事業活動など、いつどんな要領が効果的なのか登録者推移の分析を行い、普及周知に努めてまいります。

また、防災アプリの普及にはふだん使い、慣れることが重要です。防災のみならず、各種の境町からのお知らせ情報を適宜配信するとともに、さらに他の情報システムと連携など機能向上を図り、実効性の向上に向けた防災体制の構築に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） 答弁ありがとうございました。先ほどちょっと聞き忘れてしまったのですが、行政Ma a Sの車両とかも活用するということは言っていましたか。マイナンバーカードの申請とか期日前投票とか、この前のプレミアムクーポン券もそうなのですが、ぜひこの行政Ma a Sの車両を活用していただいて、町民の方に普及拡大をしていただければと思います。

以上です。

○議長（倉持 功君） これで鈴木英明君の一般質問を終わります。